

「私」をつくった言霊



東京石灰工業社長 菊池宏行
きくち ひろゆき

言葉は時として意識や考え方を変えるほどの力を持つことを誰しも経験しているだろう。私も今まで多くの人からいただいた言葉により、経営者としても人間としても助けられました。

まず思い出すのは、小学校に登校する時に黒田如水の「水五訓」を暗唱させられたことだ。6年間毎日、祖父である創業者の前で。当時はその意味もわからず唱えていたが、今の私はその言葉どおりの経営や生き方に、知らず知らずに徹している。音として覚えたことを文字にして、その意味を「本当に」わかるようになったのは社長になってからだ。

一、自ら活動して他を動かすは「水」なり
一、障害に逢いて激しくその勢力を倍加するは「水」なり
一、常に己の進路を求めて止まざるは「水」なり

一、自ら潔くして他の汚濁を洗い、清濁併せ入るる量あるは「水」なり
一、洋々として大洋を充たし発しては蒸気となり雲となり雨となり雪と変じ霧と化し凝っては玲瓏たる鏡となり然もその本性を失わざるは「水」なり

原文とは少し異なり創業者なりのアレンジが少々入っているようだが、経営者としても人間としてもこの言葉から多くを学び、いまだに教わることも多い。創業者は毎朝、新聞

チラシの裏側に水五訓を書いていた。現在、私も毎朝水五訓を書きながら創業者の精神を感じている。

次に思い出すのは、社長になって間もないころに、ある大手タイヤメーカーの社長だった方からいただいた言葉だ。「社長となつたら会社のために自分が必要だと思ふことは絶対正しいことだから迷わずにやるべき」と。先代の急逝により社長となつたばかりの不安な私には、震えるほどうれしかったことを覚えている。同時に、経営者としての沸き立つエネルギーを会社や社員に与え続けることが自分の役目だと確信した。

また、その方の次代社長の、「設備は足りないくらいがちょうどいい」という言葉は印象的だった。どういう意識基準で設備投資などをすべきか迷っていた時に、「足るを知る」ということを教えていただいた。

人は考え、工夫やイノベーションを起こすためには、状況の満たされすぎでは決して生産性の向上にはつながらないことを、今まさに感じている。まだほかにもたくさんの方に多くの言葉をいただいた。私の糧になっていることはもちろんだが、その言葉一つ一つにその方たちの精神や力ある言霊を感じている。「欲張りな」私はこれからも出会う多くの言葉を樂しみに、いつか私もそういう言霊を渡せる存在になりたいと思っている。